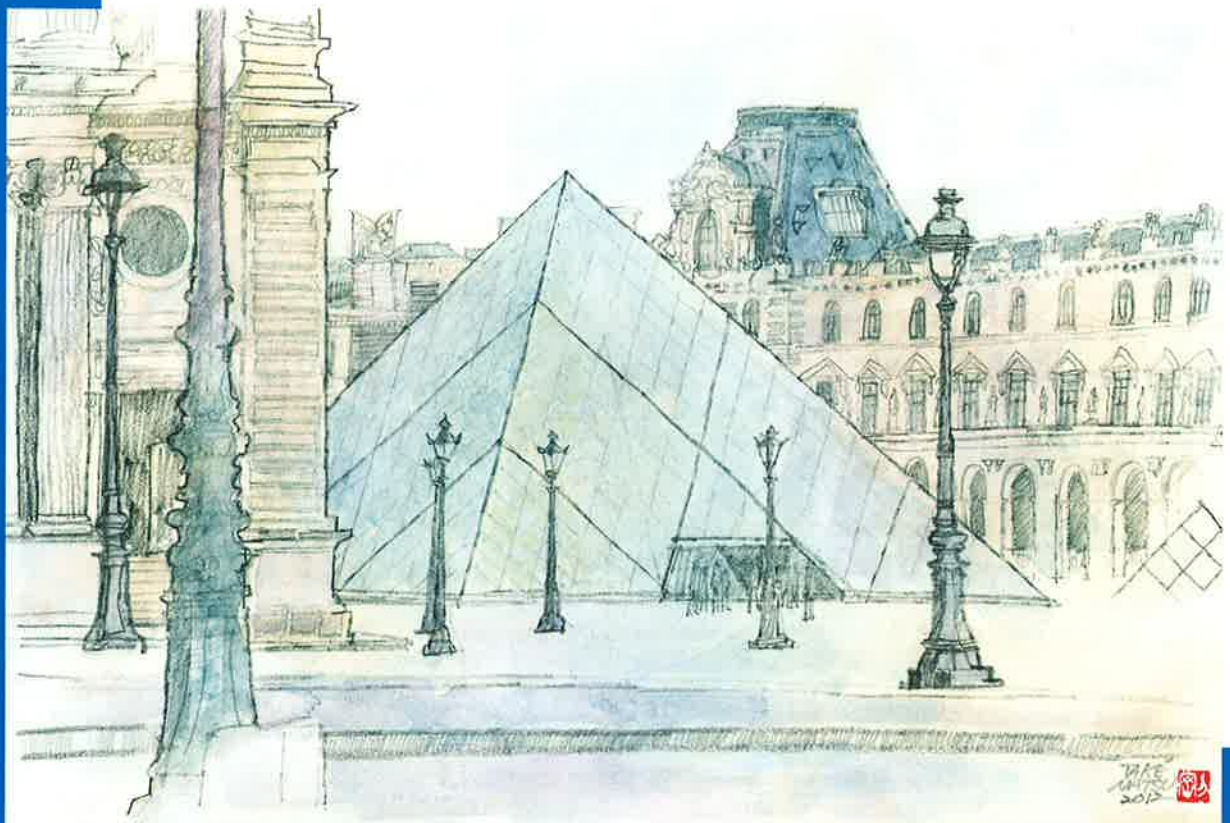


アニュアルレポート中国 2012



建築家憲章

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承発展させ、地球環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。

（創造行為）

建築家は、高度の専門技術と芸術的感性に基づく 創造行為として業務を行います。

（公正中立）

建築家は、自由と独立の精神を堅持し、公正中立な立場で依頼者と社会に責任を持って業務に当たります。

（たゆみない研鑽）

建築家は、たゆみない研鑽によって自らの能力を高め役割を全うします。

（倫理の堅持）

建築家は、常に品性をもって行動し倫理を堅持す。
社団法人日本建築家協会（J I A）会員は上記憲章のもとに集う建築家であり、J I Aは会員の質と行動を社会に保障するものです

CONTENTS

■ 2012 年度 中国支部 総括

支部長 山田 暁

■副支部長発

「変化する JIA」

副支部長 藤田佳篤

「公益事業を考える」

副支部長 龜谷 清

「一年を振り返って」

副支部長 大旗 健

■地域会会長発

岡山地域会 大石雅弘

広島地域会 垂井俊郎

山口地域会 田中輝幸

島根地域会 山根秀明

鳥取地域会 塚田 隆

■第7回 中国支部大会

「J I A 中国支部建築家大会 2012 in 鳥取」

・実行委員長コメント

大会実行委員長 塚田 隆

・内容報告

■第4回 J I A 中国建築大賞 2012

・審査報告

実行委員長 山根秀明

・総評

審査委員長 内藤廣（建築家）

・受賞作品紹介

■活動報告

中国支部 通常総会 常任幹事 久保井邦宏

岡山地域会 大石雅弘

広島地域会 垂井俊郎

山口地域会 田中輝幸

島根地域会 山根秀明

■J I A 中国支部組織表

■J I A 中国支部会員リスト

2012 年度 中国支部 総括



社団法人日本建築家協会中国支部長 山田 暁

J I A は全国に 10 支部あります、我々はその中の中国 5 県からなる中国支部に所属しています。さらに県単位の 5 地域会で構成されている支部でもあります。

さて、本年度は日本建築家協会（J I A）にとって重要な年でした。

2013 年 4 月から公益社団法人に移行する為、組織の再点検を行ってきました。つまり、本部・支部・地域会と役割分担とあり方の見直しを行い、活動の拠点を支部・地域会にシフトしていく為の準備を行った 1 年であります。

また、新しく準会員制度を造り、活動の中を広げより社会に貢献できる組織に変わっていこうと考えた 1 年でもあります。

その意味するところは、今までもそうでしたが、今後は一層、社会に向けての活動にエネルギーを使って行くと宣言した事にほかなりません。その活動のベースは主として地域会（中国 5 県地域会）が担います。今後は各種団体・市民と共に地域社会の為に汗をかいていく事になるでしょう。

中国支部の具体的動き

公益法人に移行することに伴い、支部規約改定を年度内に行う必要があり、その為に立ち上げた WG（ワーキンググループ）で検討を重ね、ほぼかたちが出来上がっています。支部の臨時総会にて承認をもらいました。また支部財政の健全化の為の WG（ワーキンググループ）も立ち上げています。すでにご存知と思いますが、これらの内容に関しては地域会長を通じて意見集約をお願いし来年度からの活動に反映していきます。

まだ見ぬ仲間たちへ

IA は新会員制度（準会員、協力会員）を造り、建築設計活動にかかわる多くの方達と共に、公益活動を行う事が出来たらと考えています。多くの仲間を募っていきますので、ぜひご参加をお願いします。公益事業を行うと同時に、サロンの雰囲気を持った団体としての、良き伝統も大事にしていきます。

副支部長発

■「変化するJ I A」



副支部長 藤田佳篤

私自身、昨年までは岡山地域会のポジションから会の運営を見ていました。今年度からは立場が変わり、副支部長として支部全体の視点で注目することに気持ちの切り替えが必要でした。

新たな視点でレンズを引いて視野を広く見ようとしては難しく、中国エリア全体を通して見る役職にある山田支部長の大変さが、改めて分かった一年でもありました。支部活動では、いろんな面での課題も数多くあります。今年度は特別な年であり、公益法人化へ向けて規約の改正や、財政基盤の見直し、組織の再点検と様々な検討内容があり、繰り返しの会議、会議で、あっという間に一年が過ぎ去ったように感じます。

支部事業を行う上での難関は、集まるだけでも個々の移動距離が大変なことで、会議や委員会の度毎にお金と時間がかることです。かと言ってネット会議だけではお互いの真意も

伝わりにくく、コミュニケーションも取りづらくなってしまいます。

このようにヒト・モノ・カネが動くことで相反する課題点も多々ありますので、情報を共有する手段として本当にいい方向を見出すためにも、次年度からは皆で真剣に話し合ってみたいと思っています。

中国支部会員全員が共有することとして、まずは各地域会毎に自主・自立の考えを持った上で、支部間の連携と事業を考えることが重要と思っています。

そしてもう一つは、せつかくのJ I A中国支部にある優秀な人財を生かしての取り組みを積極的に考えることです。頑張っている会員に陽が当たるようにサポートしたり、若い建築家にチャンスを与えたりと、会員の専門性を生かした地域に根差す活動が、ひいては地域に新しい人材(会員)を増やすことへと繋がると思います。

また各地域のまち並みが美しくなるように会員自らが主体的に仕事を通して取り組むことで、行政と市民を味方につける大切な関係づくりにもなり得ると思います。

改めてユーザー目線で我々を照らし合わせた上で、これから社会に求められる建築家像を見直し、姿勢を正してレベルアップに努めたいと思います。

考えられるか一度、精査し今までの概念にとらわれず考えることが大事だと考えます。

一般の人達に建築や景観などについての理解を高めるための市民講座や学校に出向いていつての生徒を対象にした出前講座で建築や環境についての話しをし、建築や環境について興味を持ってもらい理解を深めて貰うように働きかけると言うような活動も考えられると思います。このような活動の中からその地域の建築や環境についてかんがえ、いろいろな活動を支える人達が育つと思います。又、学校での出前講座の中からは将来、建築家を目指す子供達も育っていく可能性があると思います。その地域に住む人達の建築や環境に対する意識が高くなればいくら建築家が頑張ったところでその地域全体の住環境は良くならないと思います。J I Aの公益事業と言うのにはそのような活動が大事だと考えます。

■「一年を振り返って」



副支部長 大旗 健

昨年、広島県において約13000㎡の高精度放射線治療センターと地域医療総合支援センターの合築建物の公募型プロポーザルが実施されました。その審査委員長にJ I A芦原会長が推薦され、活躍されました。その建物もこの6月には施主業者決定の予定です。それ以後、県内の中規模建物(2～3000㎡)にも公募型プロボが採用され、今年度6物件が試行実施されました。その間J I Aに対して、プロボ実施に対する意見を求められ、J I Aマガジンのプロボ特集を全てコピーし持ち込みました。また選考委員の推薦依頼も受け、プロボの広報もJ I Aのホームページに載せ会員に連絡しました。

平成25年度予算に「魅力ある建物創造事業」が計上され、広島型プロポーザルが幅広く公募される予定です。魅力ある公共建築物を創造する仕組みを構築する他、クリエイティブな人材の誘引や育成を図り、広島県のブランドイメージを向

上させることが狙いとされています。これを受けてJ I Aは他団体(学会・士会)と共に、県と包括協定を締結し、プロポーザル選定のための審査体制の充実を目標とします。＝建設通信新聞2013年2月18日発行中国版 参照＝

昨年、副支部長を引き受け、早1年になりました。初年度ということもあり不勉強を補うため、じっくり廻りを見る役目で、公益法人移行対策とJ I A全国大会への参加と広島県への対応のみでした。

先日、戦後の広島の復興期(昭和23～25年)の様子が、NHKでドキュメンタリータッチのドラマで放映されました。原爆で焼き尽くされた街を見事に復興させた当時のパワーを、東日本の被災地に伝えたかったようです……。そのワンシーンに、焼け野原にボツンと建つクラシック喫茶店で、当時の新市長を囲む5人のプレーンの姿がありました。5人は建築家、お茶の家元、画家、そしてマスコミ関係です。彼らの豪放な知恵が現実になる過程は、ドラマを見る私に勇気を与えてくれました。広島街に都市造りの原点を見たような気がしました。

新年度から気持ちを新たに対応頑張りたいと思います。

■「公益事業を考える」



副支部長 亀谷 清

事業担当の副支部長に就任して1年経ちましたが、特別にした仕事と言うのが思い当たりません。今年度からは公益社団法人に成ったので公益事業に積極的に取り組んでいかなければ成らないのですが、島根地域会や鳥取地域会の様に会員数の少ない地域の場合はJ I A単独で活動することはなかなか難しいと思います。そこで他の諸団体、建築学会、建築士会、建築士事務所協会等との連携が大切だと考えます。その為にはそれぞれの会との連絡を密にし、情報の共有を図ることが必要だと思います。また公益事業としてどんなものが

地域会会長発

■「コミュニティーアーキテクトとして再出発」 をテーマとして活動してきました 岡山地域会 大石雅弘

地域に足を据えて、建築文化に貢献する。コミュニティーアーキテクトを目指して活動してきた。

倉敷市には、伝統建築物を含め古い民家の改修を手掛け、永く活動を続けて、大きな功績を残している会員が居る。岡山市にも、旧日本銀行岡山支店を多目的ホールとして、地域の文化活動の拠点整備で大きな功績を残し、今もその施設の運営に深く関わり、地域の多様な文化活動を支えている会員が居る。さらに、岡山県産の檜・杉の建築用材の供給体制の再構築や木造建築の技術の保全・活用を通して、木造建築の復活に貢献している会員が居る。

岡山地域会の会員は地域と永く・深く関わり、地道な活動

■今、為すべき活動は、「消されたヒロシマ、鎮魂の福島、 再び、ひろしまのこれから」 広島地域会 垂井俊郎

私たちプロフェッションの役割は地域に根差した都市・建築と生活空間の質の向上を図ること、環境のサステナブルな未来をめざして行政とともに、人々がつながって共に支え合い生きる社会を築き命と健康の保護に寄与することです。CD2050「再び、都市広島への夢」のまちづくりからみえてくる景観は理想の象徴の「世界都市」として広島は語られつつあることです、サステインの思想・視点から再認識しますと「未完の平和記念都市広島」とも言えます、まだingいまだに復興の過程と視ることが出来ます、2011・3・11以後の東北地方、復興のさなかの福島とどう寄り添うか、広島イベント実行委員会は主題「戦後ひろしまと建築家の平和への表現」と副題に「福島の復興へのメッセージ」としています、被爆建物の旧日銀広島支店での来秋開催に向けて準備の委員会を重ねています、イベントのコンセプトをまとめて広島市との共催としたいと考えています、白井晟一の作品「原爆堂」計画案と磯崎新の作品「再び廃墟となったヒロシマ」は「21世紀のオリジナル」として公開したい、同時に地域会の登録建築家と会員の作品展示、来場参加者の子どもたちの描くひろしまのまちの絵を観てみたいと思います、交流部会の作品展示も協力頂きます、



ですが、建築文化の継承と向上に実績を積んでいます。このような活動をもっと拡げて行く役割を担い地域の発展に寄与したい。

□岡山の建築文化を継承する

岡山の建築文化や歴史を、後輩の建築家に繋いでいくことは大きな意義を持つ。地域の建築家の活躍ぶりをセミナーや見学会に於いて、直接見聞する機会をつくり、参加してもらい、仲間をつくる。若い世代の建築家をまちづくりの担い手として育てることは大事なこと。身近で活躍されている建築家と交流し、研鑽を積む。

□岡山の防災啓発活動

岡山地域会は建築設計に関わる他の団体と共同で防災の啓発活動をしています。安心・安全なまちと建物を実現する為にできる範囲で取り組みます。

後援には広島県、協賛に JIA 東北支部福島地域会、広島建築士会他、中国新聞社、ひろしま美術館他、関係各団体に働きかけます。

備後福山はシリーズのせとうち文化セミナー「街はかならず再活性化できる」のテーマで開催し116名の参加者をいただきました、都市計画家の西郷真理子教授の基調講演から学習し引き続きのフォーラムでは備後人の特徴・資質を会場の参加者にたずねられ市民、学生、遠来の方に声をかけて有意義な時間を共有しました、幹事の後藤さんお疲れ様です、メンバーの前田圭介さんは JIA 新人賞を「アトリエ・ビスクドール」で獲得されましたおめでとうございます。ひろしままちづくりワーキンググループのひろしまの建築家が考えるグランドデザイン「市民ひろばづくり」の提案があります、住まいづくり委員会は関連団体協議会の活動を踏まえた事業を推進し相談会等を支援してます。活動の方針に沿って地域会の会員と外の皆さまとの交流の場が多様に創られつつあります。

JIAは公益法人化で益々地域社会と交流の機会が多くなり、どういう関係をつくるかは大事です、人の幸せのために関わり合う「心の共有」をめざし次年度に向けて活動致します。



■「今年度の活動と来年度に向けて」

山口地域会 田中輝幸
山口地域会長の仰せつかって1年が経過しました。不慣れな大役で、会員の皆さん方の友情と協力を得ながら務めてまいりました。

□今年度を振り返ってみますと、

公益法人化移行に伴い、JIA本部の定款、会員規程、会費規程が改定され、中国支部の支部規約や地域会規約も担当委員会の方々の努力により改定されました。JIAが自らの協会規程を改定し、地域に根差した公益活動を推進すべく将来の方向性を定めた年でした。

横浜で開催された全国大会の田中優子氏、山崎亮氏、芦原太郎会長のパネルディスカッションは、「巨匠の作品からまちづくりの調停者へ、自然を味方にして共に越える」という内

■今年度の活動について

島根地域会 山根秀明
今年度から島根地域会長の務めさせていただきました。

今年度は中国支部の事業の柱である「第4回中国建築大賞2012」の主担当、「第7回中国支部建築家大会2012IN鳥取」の副担当でした。今年度の島根地域会はまずは大きな二つの役割を無事果たすべく、鳥取地域会と協力しながらその事業に集中した一年でした。関係の皆さんにご協力をいただき、

■「2012 事業報告」

鳥取地域会 塚田 隆
24年度の鳥取地域会は2つの事業を行いました。

9～10月には学生アイデアコンテストを『とっとり建築集団』と共催しました。鳥取市郊外の湖山池にふさわしい公園について現地でワークショップを開き、学生達はその結果をふまえてアイデアを競い合いました。地域会長が審査員の一人として参加し、提案書の提出後1次審査会、2次審査（ヒアリング）の選択を行い審査終了後、最優秀賞1点優秀賞2点を

容でした。東日本大震災を契機にJIA建築家の考え方も変わってきていると感動を覚えました。

山口地域会恒例の環境再生フォーラムを山口市で開催し、大内氏ゆかりの国の重要文化財龍福寺本堂の全解体復原について、支部会員の皆様方とともに検証しました。

□来年度に向けて、

山口地域会の会員数は19名と非常に少なく、地域会として継続的な年間事業活動をするには厳しい状況です。JIAの魅力のアピールし会員の勧誘に努めたいと考えています。来年度は中国支部大会が山口県での開催となります。地域会員一致団結して準備をし、支部会員、交流部会員をはじめ多くの一般の方々もお迎えしたいと思っています。

公益法人化に伴う地域会規約の改定を急ぐと共に、市民や地域団体参加型の公益事業の推進に努めます。

なんとか無事に事業が完了しほっとしております。

また今年度島根ではJIA島根地域会、島根県建築士会、島根県建築士事務所協会の会長と連絡会議を立ち上げました。関連する団体がお互い情報交換や事業の連携などを今後積極的にしていこうということで意見が一致しております。会員数21名と少数な中で、JIAの独自性を保ちながらより充実した活動が出来るように模索をしていこうと思います。

選び表彰しました。普段はプロポーザル等で選ばれる立場ですが、今回は評価する側という立場が新鮮であり、刺激を受けました。

12月には『中国支部大会2012 in鳥取』を島根地域会と共催しました。通常の都市型の大会ではなく地方の田舎で開く、劇場型大会と、新しい試みをいたしました。懇親会では、老若男女が、建築について、建築家としての生き方について等夜半まで熱く語り合いました。JIA会員49名、交流部会11名、一般64名の参加でした。

第7回 JIA中国支部建築家大会2012 in 鳥取



大会実行委員長 塚田 隆

JIA中国支部建築家大会は2006年度から始まり、12月14、15日にわたり開催された2012年の大会は7回目の開催となりました。大会も二巡目となり山陰でも二回目となりますが、鳥取県では初めての開催となりました。

開催にあたり、実行委員である鳥取島根両地域会では議論を進め、地域における建築家の役割について考えることを大きなテーマとしました。これは昨年の広島での大会でのテーマを受け、今地方で起きている諸問題こそ、本来建築家が積極的に関与し、解決していくことではないかと考えたからです。

開催地の鳥取市鹿野町は鳥取県東部の山間の小さな城下町です。過疎化や高齢化など典型的な地方の問題を抱えながらも、修景整備や空き家再生などに取り組む等、まちづくり意識の高い地域です。また、「鳥の劇場」という世界向けレベルの高い芸術を発信している場所、人たちもいます。これまでの大会では主に都市部でおこなわれてきましたが、わたしたちはこの地こそが今回のテーマを考える場所としてふさわしいと考えました。

講演、デザインフォーラム等の例年のプログラムに加え、演劇鑑賞や、広く一般の方にJIAの活動をアピールすべく会期後にわたり実施した「アンビルド展」「鳥取県学生建築アイデアコンテスト」、JIA中国建築大賞受賞全作品のパネルの展示なども鳥取大会の特色になったと思います。また参加いただいた殆どの会員が2日にわたり寝食を共にし、さながら合宿のような建築家大会になったのではないかと考えています。

最後になりますが参加いただいた皆様に深く感謝申し上げますとともに、次回の大会への期待をよせまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

■ 内容報告

実行幹事 来間 直樹

□ 大会概要

日時：2012年12月14日（金） 15日（土）

会場：鳥の劇場 鹿野往来交流館童里夢

後援：鳥取県

鳥取市

（社）鳥取県建築士会

（社）鳥取県建築士事務所協会

（社）日本建築学会中国支部鳥取支所

とっとり建築集団

米子建築塾

（社）日本建築構造技術者協会中国支部

（社）日本建築積算協会中国四国支部

（社）日本商環境設計家協会中国支部

□ プログラム

14日（金）

13:50 開会

14:00-15:20 トークセッション「超地域主義！」

15:30-17:00 演劇鑑賞「森は生きている」

19:00-21:00 懇親会

15日（土）

8:40- 10:00 デザインフォーラム

「若手建築家の建築力を問う」

10:10-11:00 JIA中国建築大賞2012入賞発表

11:05-12:20 対談「地方における建築家のあり方」

12:30-12:50 閉会式

13:00-15:00 エクスカーション（砂の美術館）

□ トークセッション「超地域主義！」

中島 諒人（演出家／鳥の劇場芸術監督）×

前田 圭介（広島地域会）

ファシリテーター江角 俊則（島根地域会）

会場となった「鳥の劇場」は劇場の名前でもあり劇団の名前でもあります。小学校の統廃合によって廃校となった旧鹿野小学校と鹿野幼稚園の建築を利用し2006年から活動されています。特筆すべきことはこの集団がとてもレベルの高い演劇をこの場所で生み出し世界に発信しているということ。さらに演劇活動にとどまらず、教育や文化、地域振興にまで、ひろく地域に開いた活動をされています。

トークセッション「超地域主義！」では、地域の固有性を丁寧に、また突き詰めて考えていくことで、地域性を越えた、ある種の普遍性を帯びた価値をみつけられないか。そのことが我々地域で活動する建築家の指針になりえないかを考える機会にできたらいいなと考えました。

前田さんの建築は、その場所の特性（ローカルなもの）を顕在化させながらも、環境の総体のなかのひとつとしての在り方という普遍的なテーマを模索している。この姿勢こそが前田さんの建築の強度を生んでいるのではないかと感じました。

一方の中島さんは鳥の劇場での極めてローカルなロケーションでの活動のなかで、東京のように同じ分野どうしの関係性でなく必然的に多様な分野の人々との交流が生まれ、結果ブリコラージュ的にものが展開していく。中島さんはその繰り返しの先に新たな価値を発見できる可能性があるのではないかといいます。また、なぜ演劇は人間にとって必要なのか、なぜ芸術は必要とされるのか、どのように建築が人を豊かにするのかという原点にたち帰るような問いは、東京のような商業主義が支配する場所では生まれにくいのではないかと、その問いを考えざるを得ないことが地域での活動のモチベーションになっているとお話は我々に勇気をあたえてくれるものであったのではないのでしょうか。

□ 演劇鑑賞「森は生きている」

原作：サムイル・マルシャーク 翻訳：湯浅芳子

構成／演出：中島諒人 舞台美術：大下志穂

作曲：武中淳彦

衣裳：樋口希理子

出演：阿部一徳 榊原毅 齊藤頼陽 中川玲奈

赤羽三郎 村上里美 葛岡由衣 高橋等

中垣直久 ほか

クリスマス時期の子供と一緒に楽しめるプログラム。

子ども向けの作品ですが、見えないものへのおそれや敬意、人を信じる気持ちなどをテーマにしている。ユーモアあふれる演出やユニークな美術が印象に残りました。こんな田舎に、このようなレベルの高い劇団がいることに驚かれたのではないかとおもいます。

□ 懇親会

カニすきと各地域会よりの地酒をかこみ、夜遅くまで建築への熱い議論が交わされました。



□デザインフォーラム「若手建築家の建築力を問う」

コメンテーター

出江 寛 内藤 廣 竹原 義二 江角 俊則

プレゼンテーター

金坂 浩史（島根地域会） 萬井 博行（鳥取地域会）

恒例のデザインフォーラム。今回は出江先生をはじめ、内藤先生、建築大賞授賞者の竹原氏、同じく江角氏を加えた豪華コメンテーター陣をむかえ、例年以上に辛口で刺激的かつ愛のあるコメントが飛び交いました。二人の若手も善戦しましたが撃沈しました。毎回思うことですが建築を言葉で表すことの大切さ、難しさを感じました。

□対談「地方における建築家の在り方」

出江 寛×内藤 廣 ファシリテーター 龜谷 清

地方の建築家を取りまく以下の4つのテーマについてお二人にお話をうかがった。1.「時代的テーマ」人口減少社会にむけた地方での建築のあり方。2.「社会的テーマ」3.11以降のパラダイムシフトと建築のあり方。3.「建築的テーマ」風土とデザイン。4.「若い人にむけて」これから地方で頑張ろうとする若手建築家に向けて、何を大切にすべきか。

□展示「アンビルド展」

コンペやプロポーザルは、建築家にとってつねに全力での挑戦であり、その計画案は実現に向け心血を注いできたものです。

しかしながら残念なことに審査員の心に届かなかったもの、想像をこえてしまったものもあります。そんな愛すべき計画案を集め、世間の風にあててやることで次のステップとしたいと考えて企画しました。

とっとり建築集団との共催

□展示「鳥取県学生建築アイデアコンテスト」

2012年10月におこなわれた「鳥取県学生建築アイデアコンテスト」において選ばれた最優秀賞以下上位3点を展示した。このコンテストは、鳥取県内の大学・短大・高専の学生を対象に、鳥取市湖山池西岸の金沢地区公園約4ヘクタールの再整備計画および休憩舎の計画を行うもので、優秀賞案に基づいて実際の設計や整備が行われる予定です。とっとり建築集団との共催



金坂氏の作品



萬井氏の作品



アンビルド展

第4回 JIA中国建築大賞2012

■ 審査報告



JIA 中国建築大賞 2012 実行委員長 山根秀明

応募建築作品は最近10年以内（2002年1月から2011年12月まで）に竣工した建築作品で一般建築部門・住宅部門の2部門とし、審査委員長は建築家 内藤廣先生、審査委員は建築家 倉森治先生、建築家 錦織亮雄先生にお願いしました。応募は7月1日から8月8日まで行い、一般建築部門12作品、住宅部門12作品の合計24作品の応募がありました。

8月下旬に一次審査・書類選考を行い、一般建築部門4作品、住宅部門4作品の計8作品が現地（二次）審査対象作品として絞られました。

現地審査は9月15日から17日にかけて、審査委員長、審査委員の立会いのもと行われました。島根をスタートし、鳥取、岡山、広島と中国地方をほぼ一周する行程で行われ、ハードな日程の

■ 総 評

審査委員長 内藤 廣
（建築家）

JIA 中国建築大賞も4回目を迎え、関係者のたいへんな努力もあって、しだいに意義ある大きな賞へと育ちつつあります。毎年、現地審査で回るのがですが、中国地方の広さを実感するとともに、地域によって異なる建築文化が生み出されつつあることを感じます。地域ごとに会員同士が切磋琢磨している成果が現れ始めているのではないのでしょうか。地域主権が叫ばれるこの国のこれからの文化を考える上で、これはとても大きなことです。JIA 中国建築大賞は、この流れを進め励ますものでありたいと思っています。

今年、幾つも作品を見るうちに、建築家の能力を引き出し、存分に仕事をさせる施主の理解が、作品にとって大きな役割を果たしていることに気付きました。近年の作品で優れたものは、例外なく作品の裏に施主の温かな眼差しがあることを感じました。この賞に於いては、特にこの傾向が他地域より強いと思います。これも大きな地域特性です。そこで、審査委員と事務局で話し合った結果、今年から建築家と共に建築主にも記念品を贈ることにしました。この賞におおきな特徴が加わることになります。

■ 審査委員

審査委員長 内藤 廣 （建築家）
審査員 倉森 治 （建築家・JIA 名誉会員）
審査員 錦織亮雄 （建築家・JIA 名誉会員）

中大変精力的にかつ厳正に審査をしていただきました。

結果、一般建築部門・大賞1作品、優秀賞3作品。住宅部門・大賞1作品、優秀賞1作品、特別賞1作品が選出されました。すぐれた建築作品を生み出したのは建築主の力も大きいとの事から、建築主も何らかの表彰をしたらどうかという審査委員会の提案がありました。

12月14日、15日に開催された、JIA 中国支部建築家大会 in 鳥取において入賞発表、及び表彰式を行いました。今年度は入賞発表と、表彰を同時に行いました。、表彰式では建築主も同時に顕彰し記念品を渡しました。また、第1回目から第4回までの受賞作品のパネルを制作し、同会場で約一週間パネル展示も行うことが出来ました。少しでも多くの方に JIA 中国建築大賞のことを知っていただくことが出来たのではないかと思います。

応募・審査期間中、大変多くの方々のご協力、ご支援をいただき無事今年度の「JIA 中国建築大賞」を終えることが出来ました。皆様に感謝申し上げます。

JIA 中国建築大賞が地域の建築文化に貢献できる意義深いものとして、さらに特色あるものとなって発展していくことを願っております。

■ 受賞者作品リスト

- 一般建築部門 建築大賞
認定こども園 さざなみの森（広島県）
設計者 竹原 義二 無有建築工房
- 一般建築部門 優秀賞
おかやま山陽高校記念館（岡山県）
設計者 大角 雄三 大角雄三設計室
- 一般建築部門 優秀賞
潜水士のためのグラスハウス（広島県）
設計者 中藺 哲也 ナフ・アーキテクトデザイン（有）
設計者 名和 研二 なわけんジム
- 一般建築部門 優秀賞
雲南市立三刀屋中学校校舎改築工事（島根県）
設計者 小草 伸春 ㈱小草建築設計事務所
- 住宅部門 住宅大賞
ナカニワニワハウス（鳥取県）
設計者 来間 直樹 カマナキ建築設計事務所
- 住宅部門 優秀賞
光舞台の家（広島県）
設計者 小川 文象 FUTURE STUDIO
一級建築士事務所
- 特別賞
谷万成の家（岡山県）
設計者 神家 昭雄 神家昭雄建築研究室

■受賞作品紹介

審査委員長 内藤廣
(建築家)

□ 一般建築部門 建築大賞

認定こども園 さざなみの森(広島県)
設計者 竹原 義二 無有建築工房

一般建築部門の大賞になった「認定こども園 さざなみの森」は、独特のヒューマンなスケール感、ディテールの完成度、共にそろった秀作でした。さすが竹原義二さん。心地よい空間体験をさせていただきました。独創的でありながら温かい。この微妙な感じは、やはり手描きの図面ならではののかもしれません。



□ 一般建築部門 優秀賞

おかやま山陽高校記念館(岡山県)
設計者 大角 雄三 大角雄三設計室

大角雄三さんの「おかやま山陽高校記念館」も密度のある作品でした。ひとつひとつのディテールは、大角さんが永年住宅作品で作り上げてきたものです。それが大きな建物に巧みに組み合わせられているのを感じました。



□ 一般建築部門 優秀賞

潜水士のためのグラスハウス(広島県)
設計者 中藺 哲也 77・7-アキタノデザイン(有)
設計者 名和 研二 なわけんジム

中藺哲也さん名和研二さんの「潜水士のためのグラス・ハウス」は、土木用材を積み上げた独特のマッシブな構造体と、その間に架け渡された繊細な構造体の対比が面白かった。過激そうに見えて、細かなところまでフォローアップされていたところに好感を持ちました。



□ 一般建築部門 優秀賞

雲南市立三刀屋中学校校舎改築工事(島根県)
設計者 小草 伸春 (株)小草建築設計事務所

小草伸春さんの「雲南市立三刀屋中学校校舎改築工事」は、大規模な増築ですが、のびのびとした心地よい空間を実現していました。構造計画の秀逸さも大きく貢献していると思いますが、それをことさら感じさせないところに設計の妙を感じました。



□ 住宅部門 住宅大賞

ナカニワニワハウス(鳥取県)
設計者 来間 直樹 クルナナキ建築設計事務所

住宅部門の大賞となった来間直樹さんの「ナカニワニワハウス」は、スケール感といい、そつのないディテールのさばきかたといい、文句なく高いレベルの設計であることを感じました。奇をてらうのではなく、あたりまえのことを丁寧に組み上げていく態度に共感を覚えました。



□ 住宅部門 優秀賞

光舞台の家(広島県)
設計者 小川 文象 FUTURE STUDIO
一級建築士事務所

小川文象さんの「光舞台の家」は、若々しくアイデアに富んだ作品でした。不思議な形をした平面形ですが、大きなアイデアを生かすために細部を犠牲にしていないところがよかった。一発芸に走らないところは、なかなかなものですよ。



□ 特別賞

谷万成の家(岡山県)
設計者 神家 昭雄 神家昭雄建築研究室

神家昭雄さんの「谷万成の家」は、素晴らしくウィットに富んだ軽妙な作品でした。ただの温室の改築なのに、アイデアとこだわりが素晴らしい。ひと目でこの作品が好きになりました。すでに3年前に大賞を受賞されているので、審査委員で話し合って特別賞としました。



今年も優れた作品が多数寄せられました。当選するのは一握りです。多くの方が、精魂込めて作り上げたものを、勇気をもって応募して下さいました。にもかかわらず、選に漏れた方は落胆されることと思います。しかし、これはこの審査委員で選べばこうなる、という結果です。みんなで競い合い、全体のレベルが向上していくことが目的ですから、来年もさらなる応募をいただき、この地域主体の企画をさらに盛り上げていただくをお願いいたします。やがて、全国が目が中国地方に注がれることになる日が来ると考えています。



活動報告

■ 2012年度通常総会

2012年4月27日（金）ホテルセンチュリー21 広島にて通常総会が開催された。2011年度の事業報告と収支決算、役員改選及び2012年度の事業計画と事業予算案が承認された。



(通常総会)

■ 第3回 JIA 中国建築大賞 2011 表彰式

通常総会後、同場所にて昨年行った JIA 中国建築大賞の表彰式を行った。三村実行委員長の挨拶で始まり、久保実行監事より下記の通り受賞者の発表があった。その後、錦織審査員より代表して審査講評を頂き、山田支部長より各受賞者へ賞状が贈られ、挨拶を頂いた。

□ 一般建築部門

大賞 該当作品無し

優秀賞 府中市立府中小学校・府中小学校「府中学園」

せんだ保育園

犬島「家プロジェクト」

松江歴史館

松園（増改築）

□ 住宅部門

大賞 森のすみか／nest

奨励賞 西栗倉の木の家 モデルハウス 2号



(受賞者記念撮影)

■ 記念講演会

JIA 建築大賞表彰式に続き、三分一博志講師（JIA 会員）より「地球のディテール」の演題で講演を頂いた。



(講演風景)

■ 懇親会

記念講演会終了後、場所を 12 階マグノリアに移し、各団体等からの来賓お迎えし、盛大に懇親会が行われた。



(懇親会風景)

中国支部常任幹事 久保井邦宏

■ 「暮らしと木のフェア」に参加

2012/4/21,22

倉敷の材木問屋の表題のイベントは、毎年2回開催。来場者に、JIA 会員の住宅建築作品パネル展と会員による住まい相談コーナーを設けて交流の場を設けて、生活・文化・建築・法律などを考える機会としました。



「姫路城と岩田章吾氏建物見学会」

2012/8/25

他団体と共催（おかやま緑のネットワーク）で行い、世界遺産の解体修理中の姫路城と JIA 会員岩田章吾氏の保育園の作品を、岩田章吾氏の案内で見て回った。

岩田章吾氏の作品：ハーベスト医療福祉専門学校（他者との調和を促す6色のカラー）／えいの里保育園（住宅部材で大家根を）／岡本ハーベスト保育園（セキュリティ・アクティビティー・エコロジーの3つのシステム）

斬新な発想で綿密な読みと新しい試みを実現し、空間にヒエラルキーを与えられていて、心地良い空間を観ることができた。参加者37名、残暑厳しい折の見学会でした。



■ 今川忠男・前田圭介氏建築文化セミナー

2012/10/12、
2012/12/07

福山市を拠点に地域に根ざした建築家を岡山の若い建築家がセミナーを通して交流を図ることができました。前田氏は「建築が生み出す環境について」で、視覚・聴覚・嗅覚触覚に訴えて、新たな生活空間を提案した。実現に向けて奮闘する姿を読み取ることができました。また、今川氏は「自作を語る」で地域にある本物（材料・技術・作法・文化）で建築をつくることに拘りつつ、新しい試みを意欲的に創造している。生活の中に建築を位置づけて平易な言葉で取り組む姿をみました。岡山の若い建築家はもちろん、若くない建築家も大いなる刺激をもらいました。



■ 榎文彦氏建築講演会「都市と建築の接点」

2013/9/7

先生の著書「見えかくれする都市」のなかで、日本の建築・都市には「奥」性という特徴があると指摘されています。日本の建築空間には物理的空間に「奥」性がある。例えば露地空間のように幾層も重なり「奥」へつながっていくことや、美意識や作法といった文化的な面での「奥」性を感じさせる積重なったものがあると指摘されています。まさに建築と都市の関係が表現されています。今も海外で多くのプロジェクトが進行中であり、精力的に取り組まれている。情熱は衰えを知らない。

講演会には250名以上の人々が参加し、講演会後もサイン会、懇親会と、思い出深い一日となった。

岡山地域会会長 大石雅弘



■まちづくりワーキング報告

趣旨

ひろしまのまちづくりに係る建築家として、ワーキングを立上げ、オープン形式により議論を重ねた結果、旧広島市民球場跡地の利用方向は、都心の公共空間の被爆100年（西暦2045年）を目標としたランドデザインのもとに求められるべきであるとし、専門家の立場から、広島市に提案した。

提案の骨子

◎平和記念公園から広島市中央公園一帯を、市民の日常的な利用により、国際平和文化都市ひろしまを象徴する空間とし、未来へ発展させる。（下図）

- ・旧球場跡地をひろしましみんなひろばとする。その下部にバスセンターを移転整備する。
 - ・ひろしましみんなひろばは、年間を通じて様々な催しを可能とし、都心の回遊性拠点とする。
 - ・ひろしましみんなひろばは、市民の協働により管理運営を行い、平和都市ひろしまを考え続ける場とする。
- これからこのワーキングをまちづくりに関する提案主体として、発展させていきたい。

（文責 前岡智之）

詳しくは、中国支部ホームページをご覧ください。



イメージモデル



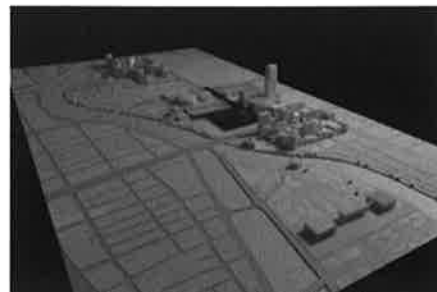
ひろばを眺めると、河川に向かって都市が広がっている様子。



ひろばを眺めると、平和記念公園と中央公園が直線的に連続する。



河川方面からひろばをみる。基町高層アパートを起点に河川敷が広がる。



ひろばを中心として平和記念公園と中央公園と河川が一体となる。

■JIA環境再生フォーラム in 山口2012

～重要文化財龍福寺本堂保存修理工事について～
建築工学的に検証する

日時：2012年10月26日（金）

会場：山口市菜香亭 2階会議室

□プログラム

13:20 開会

13:30-14:50 講演 「建築工学的にみた龍福寺本堂保存修理工事について」

講師 高橋 好夫 氏

（公財）文化財建造物保存技術協会
保存修理工事設計監理事務所 所長

15:00-15:50 パネルディスカッション

パネリスト

高橋 好夫 氏

磯部 貴文 氏

山口市教育委員会 文化財保護課 主幹

山崎 猛夫 氏

協和建設工業（株）現場所長

コーディネーター

田中 輝幸 氏 JIA山口地域会

16:10-17:00 現地説明会 会場 龍福寺

高橋 好夫 氏

磯部 貴文 氏

山崎 猛夫 氏

18:00-20:00 懇親会

□フォーラムの内容

この環境再生フォーラムは、2001年から山口地域会が継続的に開催しているフォーラムである。下関を皮切りに、岩国、萩、山口、宇部、防府、萩、下関と県内各地を巡り今回は山口での開催となった。

山口市は、室町時代に広く西国を支配していた大内氏の拠点であった。明や朝鮮の大陸文化と京文化を融合した「大内文化」という独自の文化を築き「西の京都」と言われた。山口市大内氏館跡は国の史跡に指定され、その中に建っている大内義隆の菩提寺の龍福寺は国の重要文化財に指定されている。この本堂は、室町時代の1479年に建立された大内氏の氏寺である氷上山興隆寺釈迦堂を1883年（明治16年）に移築した寺である。

この度、龍福寺本堂は、平成18年から足かけ7年の歳月をかけて平成24年4月に保存修理工事を完了した。当初は「半解体修理」であったが、構造体の老朽化が著しいと共に、解体・調査の結果、室町時代建立時の形態が明らかとなり「全解体復原」に変更された。また隣地には、大内氏最盛期の庭



龍福時本堂



池泉庭園



パネルディスカッション

園を再現した池泉庭園が併せて整備された。

この工事に携わられた方々をお迎えして、講演やパネルディスカッションや現地説明をいただき、敷地が史跡で、本堂が重文という条件の中での保存修理工事の難しさや、復原に至った調査の内容や、工事の方法や、復原による文化財的価値の向上などについて検証した。

■ JIA 中国支部組織表

高橋好夫氏の講演では、解体工事中の調査において、興隆寺釈迦堂時代の墨書が発見されたこと、室町時代以前の大工道具であるヤリガンナの痕跡が木材に残っていること、古文書の記録から建立当時の釈迦堂の見取図や形態が判明したこと等により、全解体復原により文化財的価値が向上すると判断された。解体時の木材やヤリガンナを見せていただきながら全解体復原に変更となった経緯のお話を聞かせていただいた。磯部貴文氏には、池泉庭園の高上げ再現整備や重文保存修理工事の行政手続きや補助制度及び登録文化財制度の内容について説明を受けた。山崎猛夫氏には、適当な大きさや形状の自然礎石捜しの大変さや大工さんのヤリガンナの使用訓練の話など重要文化財の解体・復原工事の難しさについて語っていただいた。

現地説明会では、本堂の内外部や池泉庭園を見て歩きながら、3人の先生方から熱のこもった説明を受けることができた。

室町時代に建立された5間の檜皮葺き和様寺院の最南端は尾道というのが通説であったが、龍福寺の解体・調査・復原工事により南限が山口まで下ったということは大変興味深かった。

支部会員や交流部会員をはじめ多くの方々に参加いただき、大変有意義なフォーラムであった。ご参加いただき、盛り上げて下さった皆様方に感謝申し上げます。また懇親会は、名付け親である井上馨や伊藤博文、佐藤栄作ら政治家や文人らに親しまれた料亭「祇園菜香亭」を移築復原した菜香亭で行い、会話と食事と美酒を堪能し親睦を深めた。

山口地域会 田中 輝幸

■ CitySwitch(シティスイッチ)フォーラム
2012 in Izumo

2012/11/24

シンポジウム「CitySwitch 出雲 2012：まちのことづくり」

CitySwitchとは複数国と都市をつなぐ建築家や都市計画家の交流を通じ、都市デザインのアイデアを交換し、都市の再生を考えていくプロジェクトです。2008年より出雲でワークショップをスタートし、5周年を迎えました。

大野秀敏氏（東京大学大学院教授）、岡部友彦氏（コトラボ合同会社 代表）のお二人を基調講演に迎え、縮小時代のまちづくりを「ことづくり」というキーワードをもとに議論しました。またこれまでの5年間にわたるCitySwitch出雲の各地域のことづくりを振り返り、これからの5年間で議論する参加型ディスカッションを行いました。

当日は地元住民、建築関係者、学生など約 100 名の参加があり活発な議論、交流がありました。

島根地域会幹事 江角俊則



現地説明会 (1)



現地説明会 (2)

[illegible]

■中国支部会員リスト

平成 25 年 3 月末現在 150 名

＜岡山＞（50名）

赤木定，赤澤輝彦，岩本弘光，石原節夫，上田恭輔，宇川民夫，大石雅弘，大倉修典，大角雄三，大丸松治，神家昭雄，神田二郎，岸本泰三，貴田茂，木村旭，倉森治，黒川隆久，佐々木満，佐藤正平，佐野宜夫，柴田晴夫，芝村満男，塩竈繁樹，新谷雅之，菅野憲，高田一，武田賢治，武村耕輔，土田利行，寺越則人，中桐慎治，中田利幸，樺村徹，中村陽二，丹羽雅人，花田則之，平山文則，藤澤敏成，藤田佳篤，丸川真太郎，宮崎勝秀，森原通仁，柳勝巳，山田孝延，山田暁，山名千代，湯淺康生，吉井深，渡辺俊雄，和田洋子

＜広島＞（51名）

石田平二，今川忠男，岩本秀三，遠藤吉生，大江弘康，大旗健，大旗祥，岡河貢，小川 晋一，沖本初，奥迫眞一，奥田實，梶本正博，河口佳介，久保井邦宏，高畑憲明，後藤重貴，境部生，佐々木著，三分一博志，杉田輝征，高志俊明，高橋幸子，瀧口信二，竹内謹治，谷尻誠，垂井俊郎，千原康弘，堤敏明，土井一秀，土井良介，東宮年一郎，土肥晶仁，仲子盛進，中園哲也，奈波和明，錦織亮雄，西田一好，濱田昌範，平田欽也，藤本和男，藤本寿徳，堀江淳，前岡智之，前田圭介，正木繁康，三島久範，宮野鼻啓二，宮本剛，元廣清志，八柄啓造

<山口> (19名)

石丸和宏、内田文雄、久保紳哉、窪田勝文、栗林隆、佐田祐一、田尾繁、田中輝幸、谷川清志、中村正俊、長野英彦、永見龍一、西村彰和、原川伸二、松崎強司、三村夏彦、村重保則、山下宏、山根満広

＜島根＞(21名)

石倉保富，江角彰宣，江角俊則，尾川隆康，小草伸春，金坂浩史，龜谷清，白根博紀，僊石友秋，田原辰男，寺本和雄，原浩二，古山篤史，牧戸捷弘，増野元泰，松倉慎治，三原貞則，矢田和弘，矢野徹明，山根秀明，渡部孝幸

＜鳥取＞（9名）

足立收平,川中節男,杵村優一郎,木下正昭,来間直樹,小林和生,戸井茂,塚田隆,萬井博行



The Japan Institute of Architects

アニュアルレポート（支部活動報告書）中国 2012

— 発行 —

平成 25 年 4 月

— 制作 —

公益社団法人日本建築家協会中国支部
〒730-0013 広島市中区八丁堀 5-23 オガワビル
TEL (082) 222-8810 / FAX (082) 222-8755
URL <http://www.jia-chugk.org>

— 表紙 —

株式会社松岡製作所（交流部会）
専務取締役 松岡 剛

— 印刷 —

（有）アウルズコーポレーション